

# 令和元年漁期後半に漁獲されたアユのふ化日の特徴

松田直往

## 1. 目的

湖産アユの産卵期は8月下旬から11月まで長期におよび、ふ化したアユは12月から翌年8月中旬までの漁期中に様々な漁法で漁獲される。これまで、いくつかの漁法で漁獲されたアユについて、ふ化日組成の推移が漁獲月別に明らかにされている(田中, 2003)。現在、田中(2003)の研究から約20年が経過し、その間にアユの資源水準や漁獲アユの平均体長に変化がみられる。そこで、本研究では、現在においても漁法・漁獲月別のアユのふ化日組成に当時と同様の傾向が維持されているのかを確認することを目的とした。

## 2. 方法

特に知見の少なかった漁期後半について、エリ(4~7月)、小糸網(5~6月)、追いさで網(5月)、沖すくい網(6月)の4漁法によって漁獲されたアユ計463個体を分析に供した。アユの頭部から耳石扁平石を摘出し、スライドガラス上にエポキシ樹脂で包埋した後、サンドペーパーで研磨した。耳石には1日に1本の日周輪が形成されることが分かっているので、光学顕微鏡下でその本数を計数した。漁獲日と日周輪数からふ化日を推定し、9月までに生まれた個体を「早生まれ」、10月以降に生まれた個体を「遅生まれ」と区分して、漁法・漁獲月別にその組成を比較した。

## 3. 結果

エリでは幅広いサイズのアユが漁獲された(図1)。4月には早生まれの割合が約8割を占めたが、5月以降には2~4割に低下し、遅生まれ主体のふ化日組成に変化した(図2)。

小糸網では、5月(中央値67.7mm)と6月(同67.7mm)は同程度の体長でよく揃っていた(図1)。これは小糸網の目合いによって漁

獲サイズが強く選択されたためと考えられる。5月には遅生まれが約7割であり、6月には全てが遅生まれとなった(図2)。

追いさで網では体長が大きく(中央値81.0mm、図1)全てが早生まれであった(図2)。

沖すくい網では体長が中程度で(中央値71.2mm、図1)9割が遅生まれであった(図2)。

以上の結果は田中(2003)とおおむね一致するものであり、毎年行っている産卵調査の結果と組み合わせることで、漁況予測や資源評価の参考資料として活用できる。

ただし、耳石による日齢査定は日齢が大きくなるほど困難になることから、特に漁期後半についてはその精度に注意が必要である。

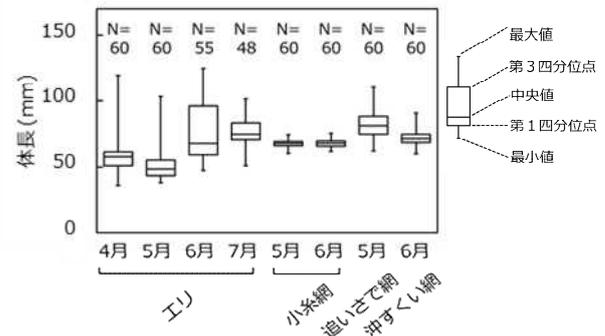


図1. 各漁法で漁獲されたアユの体長

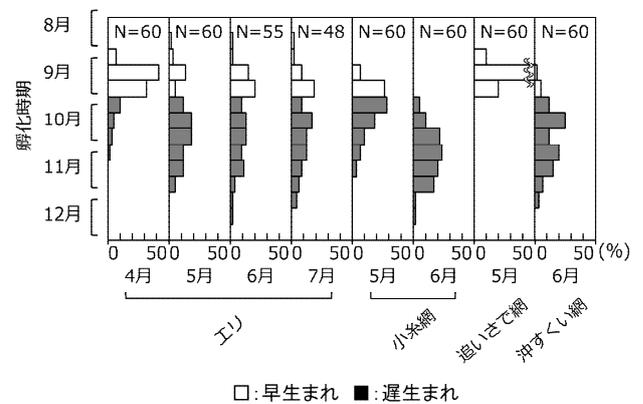


図2. 各漁法で漁獲されたアユのふ化日組成

これらの結果を令和元年度日本水産学会春季大会で発表した。